



教育目標 誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり

「人を大切にする力」を育むために

校長 白田 敏幸

本校では、これからの変化の激しい世の中を「自分らしく生きていく」ために重点的に育成していく力として、下記の3つの資質・能力を掲げています。

自ら行動する力【自律と主体性】 人を大切にする力【尊重と対話】 考え抜く力【挑戦と創造】

小学生という発達段階において、本当の意味での「人を大切にする力」を身につけることが、非常に難しいと実感しています。もしかしたら、我々大人にもこの力は身につけていないのかもしれませんが。

ここで、「人を大切にする力」を育むために大切にしている学校として想いや、日常的に本校職員が取り組んでいること(子供たちへの支援)についてご紹介いたします。

【自分を大切にすること】

人を大切にする前に、まずは、自分を大切にしているかを問うところから始まると考えます。よく、日本人は自己肯定感が低いと言われます。そういった実態であれば、他の人のことを考える余裕が出てくるでしょうか。心をコップに例えれば、自分の心にあるコップの中に「自己肯定感」や「自己有用感」等の思いがたくさん入っていて、それらがあふれ出たときに、そのあふれた部分が「人を大切にする」気持ちとして行動に出てくるのではないかと思います。6月の全校朝会で、子供たちにこのコップの話をしたところ、下記のような感想がありました。

- ・自分は自分のことがあまり好きではない。もっともっと自分のことを好きになって、他の人を大切にできるようにになりたい。(6年男子)
- ・自分を大切にするとどうするのかを考えるのは大切だと分かったけど、難しいことだと思った。(6年男子)
- ・自分を好きになるために、失敗してもあまり自分を責めないようにしていきたい。(6年女子)

全ての5・6年生が、校長の話聞いた後に、タブレットを活用して振り返りを書きました。驚いたのは、「自分があまり好きではない。」という言葉も、多くの子供が使っていたということです。この事実から、我々大人がすべきことは、「子供たちの自己肯定感を育む」ことです。もともと子供は、自己肯定感の塊であり、もしかしたら、我々大人が自己肯定感を削いでいるのかもしれませんが。教職員として、そして、一人の大人としてどう関わり、何を支援していけばいいのか、どんな言葉がけをすればいいのかについて、職員間で「問い直し(ああでもない、こうでもない、それぞれの考えを出し合うこと)」をしているところです。子供一人一人の実態が違うので、関わり方も無数にあるという理解のもと、繰り返し問い直しをしています。

【子供どうしのトラブルはよい学びの場】

本校で大切にしていることの一つに、「子供どうしを言葉でつなぐ」ということがあります。当然のことながら、学校では子供どうしのトラブルは日常的に起きています。このトラブルをネガティブにとらえるのではなく、「子供にとってのよい学びの場」としてとらえるようにしています。子供どうしのトラブルについての連絡をいただいた時にも、解決しなければならぬ「問題」としてではなくポジティブにとらえ、子供たちに、自分の行動や相手の思いについて考えさせるようにしています。その際、大事にしているのが、「子供どうしを言葉でつなぐ」ということです。それぞれの言い分を聞き、教職員が裁判官のように裁定を下し、「はい、仲直り」のようなことはせず、なぜそういった行動をしたのか、今後どういった行動をしていこうと思っているかについて、子供に自分の言葉で語らせるようにしています。その際、語彙が少なく、自分の思いをうまく話すことができない子供の言葉を、我々大人が通訳し、子供どうしをつなぐようにしています。時には、仲直りせずに話し合いが終わるときもあります。しかし、その場で、相手の思いを知ることができ、自分の行動を振り返ることもできます。この経験の繰り返しで、「トラブルを自分たちで解決できる力」、そして、「人を大切にする力」を身につけることにつながっていきます。このようなことを繰り返し経験させていくことで、自分と他の人との違い(考え方や行動)を受け入れ、互いに尊重しながら共に生活していく力と知恵を育てていきたいと思っています。

【世界に一つだけの花を咲かせよう ～べに花生け花教室～】

6月21日(水)、「フラワーキッズ・日本伝統文化おもしろ子供教室」の越後様、小関様、高内様をお迎えし、5・6年生を対象として、生け花教室を実施しました。べに花をメインとし、カスミソウやヤマブキ、スプレーカーネーション、菖蒲等を、それぞれの感性を大切にしながら生けました。生け花に使用したべに花は、品種改良されたもので、棘が全くありません。とげがないのなら、べに花摘みの時の痛みがなくなるのではないかと思います、本校のべに花栽培学習で活用できないか相談しました。しかし、この花は、べに染めには向いていないということでした。



作品名：〈前向きに〉



作品名：〈大事〉



作品名：〈新しい風〉

【べに花摘み・紅餅づくり ～総合的な学習の時間～】

7月10日(月)と14日(金)にべに花摘みを実施しました。今年度のべに花は生育にばらつきがあり、背丈の低いものもありました。上学年が下学年に摘み方を教えてあげる微笑ましい場面も見られました。

また、7月20日(木)、発酵させた紅花の花びらをすり鉢でつぶし、紅餅を作りました。6年生から5年生へと、紅餅づくりを引き継いでいきます。この紅餅を使用して、12月にべに染めをする予定です。



【地域の宝を知る ～やぶこ相撲体験～】

「地域の伝統を知る」というねらいのもと、昨年度は、「風祭太鼓体験」を実施しました。子供たちは、地域の方の熱量に圧倒され、「自分たちも太鼓をたたいてみたい!」という思いをもちました。

地域に伝わる伝統行事には、沢畑地区で行われている「やぶこ相撲」もあります。この行事は、江戸時代から実施されており、戦争中でも中止になることはなく、多くの子供たちも参加していました。しかし、ここ数年、新型コロナウイルスの影響で中止となっていました。

そこで今年度は、上記のねらいのもと、地域の方々(宇野一哉様、小野洋介様、宇野実様)をお招きして、「やぶこ相撲体験会」を実施しました。やぶこ相撲の歴史の話に始まり、「土俵入り」、「弓取り」と、地域の方々が披露してくださいました。目の前で見ると土俵入り、弓取りの迫力は想像以上で、子供たちは、昨年度の風祭太鼓同様、地域の方々の力強さとカッコよさに圧倒されていました。

その後、子供たちによる相撲を行いました。これまで本校で行っていた「相撲大会」のような大々的なものではなく、教科体育の延長として実施しました。豆力士たちの力強い取組をたくさん見る事ができました。



【横綱土俵入り】

【やぶこ相撲についての話】

江戸時代からずっと受け継がれてきました。

横綱は下沢畑の小野洋介さんです。

(小学校の時も横綱だったそうです)



【弓取り】

下沢畑の宇野一哉さん

(小学校の時にも弓取りをしたそうです。)



【児童の取組】

白熱した闘いが
繰り広げられました。

(大人対子供の取組も)



【北谷地小学校と交流学習】

新型コロナ感染症の影響で、実施を見送っていた「北谷地小学校との交流会」を、7月19日(水)に、1・2年生は谷地西部小学校、3年生以上は北谷地小学校を会場として実施しました。以前は、1・2年生のみの交流会でしたが、今年度は、全学年が交流しました。1時間という短い時間でしたが、他校の友達と共に学ぶというよい体験ができました。

次回は、それぞれ会場を交換して、12月に実施する予定です。



【体育館でグループごとに自己紹介】



【西部小の子供たちが学校案内をしました】



【3・4年生 記念撮影】



【5・6年生は、ドッジボールを楽しんできました】

【8・9月の主な行事予定】

【8月】

- 20日(日) PTA 親子作業
- 22日(火) 始業式 一斉下校 司書勤務日
- 23日(水) 子ども文庫 司書勤務日
- 24日(木) 避難訓練(地震)
- 25日(金) 学校運営協議会
- 28日(月) 移動お話し会
- 30日(水) クラブ

【9月】

- 1日(金) 司書勤務日
- 4日(月) 司書勤務日
- 5日(火) 子ども文庫

6日(水) 委員会活動

7日(木)~8日(金)

修学旅行 弁当日

12日(火) 1・2年校外学習

13日(水) クラブ 司書勤務日

14日(木) 司書勤務日

19日(月) 町芸術鑑賞教室

21日(木) 6年 地層見学

26日(火) 5年 寒河江川見学

司書勤務日

27日(水) 司書勤務日

28日(木) 就学時健診 弁当日